

Q19. 流水型ダムの効果はどの程度あるのでしょうか。

- 流水型ダムの洪水調節操作については、下図のとおり、流水型ダム地点の流入量が $600\text{m}^3/\text{s}$ になった段階で洪水調節を開始し $600\text{m}^3/\text{s}$ 放流を基本としますが、「流水型ダム地点」および「球磨川本川（川辺川合流点上流）」の流量に応じて、更に放流量を $200\text{m}^3/\text{s}$ まで低減させることも行います。その後、両地点の流入量が減少した段階で $1,300\text{m}^3/\text{s}$ まで放流量を増加させる操作としています。

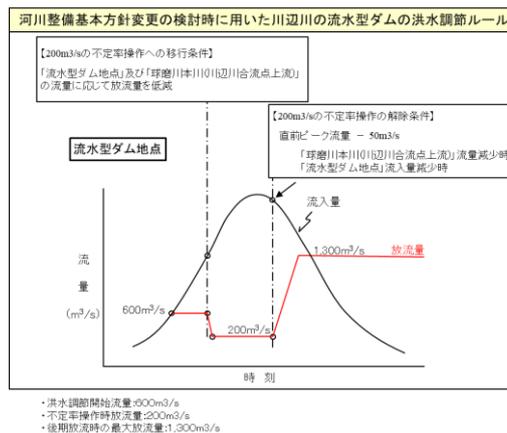


図 流水型ダムの洪水調節操作（河川整備基本方針検討時）

- 流水型ダムのこの操作により、河川整備計画の目標流量を決定している S47. 7 型の洪水では、人吉地点の流量 $7,600\text{m}^3/\text{s}$ を $3,100\text{m}^3/\text{s}$ カットし、大きな流量低減効果が見込まれます。
- また、令和 2 年 7 月豪雨時に流水型ダムがあったと仮定した場合、市房ダムだけが洪水調節を行った場合の人吉地点の流量約 $7,400\text{m}^3/\text{s}$ に対し、流水型ダムで更に約 $2,600\text{m}^3/\text{s}$ の調節が可能であり、浸水範囲、浸水深の低減につながるようになります。

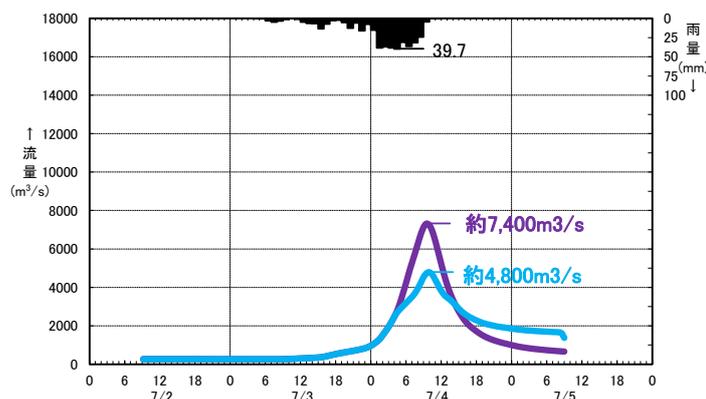


図 令和 2 年 7 月豪雨時に流水型ダムがあった場合の人吉地点の流量

- 流水型ダムの洪水調節について確認したい方は[こちら](#)をご覧ください。

- なお、流水型ダムの洪水調節については、「令和 3 年度 第 3 回球磨川水系学識者懇談会」において、（資料-4）【河川整備計画メニュー（流下能力を向上させる対策）について】にてお示ししており、八代河川国道事務所のホームページ「[令和 3 年度 第 3 回球磨川水系学識者懇談会](#)」に掲載しています。